

# 農 樂 舎 へ。

FEATURE NOGAKUSYA!

広報

## わかさ

2013.09 No.101



# 農 楽 舎 へ



## おじゃまします、 かみなか農楽舎

「バナナピーマンの収穫、見に来てください！」 快く取材に応じてくださった農楽舎のみなさん。畑でみんな並んで収穫作業中。バナナピーマンは唐辛子の甘味種、ということですが、時々、辛い「当たり」が混ざっているそう。

末野集落の丘の上にある「農業生産法人 有限会社 かみなか農楽舎」では法人として、農業を志す若者への研修を中心に、農業生産物の販売や体験学習の受け入れなどを行っています。末野集落をはじめとする町内農家、JAと連携体制をとり、各事業をすすめています。同舎の事業のコーディネートや農家との連携のフォロー、施設管理は町が行っています。また経営に関しては「るい類農園」のコンサルティングを受けています。

同舎の卒業生は平成25年4月現在34名で、うち町内定住者は21名です。

## 岩田さん、島光さん お話させてください

「天職です」  
そう口をそろえるのは、同舎の岩田悠平さんと島光毅さん。

「作物の世話も、真夏の草刈りも、集落のお祭りなどに参加させていただくことも…もうね、何をやっても楽しいんです」と、岩田さん。

そうそう、とニコニコうなずきながら島光さんも口を開きます。

「自然の中で、食べ物に関わる仕事でしたかったんです。ここではどちらも叶ってしまうんですよ」

ふたりにとって、農楽舎とはどんな存在なのでしょう。

「某マンガで例えると“新世界”。

困難を乗り越えた者だけが“好きな農業で家族を養う”というハッピーな将来にたどり着けるんだと思います。

自分もこれまで、困難に直面した事があったと思うのですが、実はあまり覚えていないんです。きっと楽観的な性

格なので、困難を楽しんでいたんだと思います」

まず岩田さんが話してくれました。

島光さんは、いかがですか？

「岩田さんみたいにうまくまとめられないんですけど(笑)、農業を取り巻く“生活そのもの”を学べる場所です。初めて集落に入った時に、大切なのは農業の技術ではなく人格。そんなことにも気づかせてもらえます。

若狭町にはいろんなご縁があって導かれました。山歩きをしていてとても感動した山が、実はこの町の山だったと後で分かったり、自分がこれからやっていきたい“不耕起栽培”(農地を耕さないで作物を栽培する方法)の分野で尊敬する先輩がいらっしゃったり。そんな不思議な縁を大切にしたいです」

都市生活も経験されているふたりに率直な質問。都会と若狭町とのギャップで苦労したことはありませんか？

「家の鍵もかけていなかったり、プライベートもあまりなくて、正直やりす

# 会 い に ゆ く



のうがくしゃ  
農業生産法人 有限会社 かみなか農楽舎。  
言わずと知れた、末野集落にある農村総合公園施設。  
しかし、まだ訪れたことがない、という人も少なくないのでは？  
今回は、ここで働くスタッフを訪ねてみました。



ぎなのでは…と感じてしまうこと  
もありました。でも、都会で暮ら  
していると、他人に無関心である  
事があたりまえになるでしょう。  
それを考えると“地域みんなが家  
族”みたいなこの風習は自然に  
思えるし、嫌じゃありません」と、  
ふたりで答えてくれました。

最後に、ふたりの原動力を教えて  
くださいとお願いすると、島光さ  
んは「愛です。周りから受け取  
った愛を返していきたいです」と。  
岩田さんは「夢です。世界を視野  
に入れて農業を展開していきたい  
です」と話してくれました。

とても熱のこもったふたりの言葉  
からは、その時々状況や流れ、  
自分の気持ちに正直に従うしなや  
かな強さを感じます。彼らは自然  
と人間とが密に関わる仕事を求め  
てここにやってきたのですね。



岩田 悠平 (いわた ゆうへい)

1978年生 東京都町田市出身  
2013年4月入社

農楽舎社員。7月にオープンした無  
人販売所「NOLAKA(のらか)」も担  
当。東京や鹿児島で会社員を経験し、  
より理想的な環境で農業に携われる  
場所を全国に探し求める。  
そして、地域の理解があり行政の  
フォローや行き届いた管理体制を持  
つ農楽舎に巡りあった。今度迎える  
初めての冬がちょっと心配…

島光 毅 (しまみつまと)

1979年生 岐阜県高山市出身  
2012年4月入舎

研修生二年目。大学卒業後、東京で  
就職。30才を期に自分が本当にや  
りたいことを考え、数々の縁が重  
なって農楽舎へ。  
都内在住中より不耕起栽培を研究  
し、農楽舎の畑で実践に備えて現在  
準備の真っ只中。  
山歩きも大好きなアウトドア男子。  
トレードマークは渋い前掛け。



農業生産法人 有限会社 かみなか農楽舎

〒919-1523 福井県三方上中郡若狭町安賀里 74-1-1

TEL (0770)62-2125 FAX (0770)62-2124 HP <http://www.nouson-kaminaka.com/>



1



5



2



6



3



7



4



8

1. 集落の一番奥に鎮座する八幡神社。入って左手には大きな木がそびえ、深い緑の中の静かな聖域
2. 県外からのお客さんで後を絶たない里山のカフェ。集落のお母さんたちが頑張っています
3. 集落の真ん中に位置する宝重寺の鐘つき堂
4. 集落の奥から国道側を見る。嶺南牧場もよく見えます
5. 須部神社(恵比須神社)近く、おばあちゃんのシロマメ畑
6. 土地の斜面に沿って続く棚田。この風景は末野の個性のひとつかもしれません
7. のんびり屋さんのツバメたちが旅立つ日を待っています。もう真夏ですよ
8. 須恵野創作館では須恵野焼の陶芸体験ができます。懐かしい黒電話が目印。探してみてください

# 村、末野



若狭町が誕生して来年で10年目を迎えます。  
旧両町間の倉見峠の麓には、かみなか農楽舎のある末野集落が広がっています。  
末野といえば、焼き物、えべっさん！夏の隠れ里へ、ようこそ。



## 風

嶺南牧場の向かいに広がるこの村は三方を山に囲まれ、奥は袋小路になっています。

この日のお天気は曇り。

時折太陽がのぞくと、やはり厳しい8月の日射しがそそぎます。北の方からそよそよと風が吹いて、日に焼けそうな肌を心配そうになでてくれます。

「北風は、尾根で分断されるさけ、そんな強くない。牧場の東側がちょうど風の通り道になつとるんや。ほやさけ、実は南風がごっついんや」

と、集落のお父さんが農機の手入れをしながら教えてくれました。屋根瓦が浮くほどに南風が吹きすさぶこともあるといいます。

## 焼き物と神様

末野では良質の粘土が産出され、奈良時代から平安時代初期にかけての須恵器窯趾せきが複数見つかるなど、ここは若狭の古代窯業の中心地でした。地名の語源は陶野、須恵野が転じたと云われています。

集落の西には「若狭えびす」として親しまれている須部神社（恵比寿神社）があります。719年創建で、陶器作りの元祖・陶津耳大神と恵比寿様を祀り、商売、漁業の神様・子どもの守り神として県内外より広く信仰を集めています。なお、神社の鳥居は、小浜藩主・酒井忠勝公が寄進したもので、町の文化財として指定されています。



## 末野の人々と農楽舎

「いつも農楽舎の研修生の働きぶりには感心している」と、集落の人々は口をそろえます。

「夏の暑い中で除草作業しとんのを見て、さすがにもう嫌になったやろ？と聞いたら、いいえ楽しいですと返ってきてびっくりしたわ」集落の人がうれしそうに話してくれます。

研修生は、卒業後、末野で農業に従事したり、祭や行事に参加したり。集落のあちらこちらには、農楽舎でつくった野菜の無人販売所も見かけます。このように、農楽舎の研修生と集落との交わりは深く、このつながりは研修生たちの努力と、地域の方々の大きな器があってこそできるものです。

県外からの研修生が多い農学舎。いわゆる「よそ」から来てくれた若者が若狭町で農業を志してくれる。

それもまた、地元の人々にとってはうれしいことなのではないでしょうか。

# まわりの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って  
いましたらご連絡ください。  
写真をさしあげます。  
(総務課 TEL45-9109)



▲的に向かって放水する団員



## 練習の賜物 (7/7)

第43回消防ポンプ操法大会が若狭消防署上中分署前訓練場で行われました。

大会は、消防操法技術の向上と団員らの士気高揚を目的に毎年開催されているもので、上中消防団4チームと自衛消防団10チームが出場しました。

出場した団員らは、テキパキとホースを繋いだり、小型ポンプを動かすなどの確な操法を披露し、来賓や観客から大きな拍手が送られました。

大会結果 (①優勝、②準優勝、③3位)

消防団の部 (①第2分団 ②第4分団)

自衛消防団の部 (①市場 ②井ノ口 ③上野木)



## 若狭路を安全運転で (7/10)

ドライバーへ交通安全を呼びかける「夏の交通安全茶屋」が、上吉田の国道27号で行われました。

この取り組みは、夏のレジャーシーズンには、渋滞したり、長時間の運転に疲れたりと事故が多くなりやすいことから、ドライバーへ交通安全の意識を高めてもらおうと行われているものです。

当日は、上中交番所・駐在所連絡協議会のメンバーら約20人が参加し、「事故に気をつけて、安全運転してください」と、ドライバーや同乗者にチラシなどを手渡して呼びかけました。

同協議会の水口清作会長は、「これから子どもたちも夏休みに入るので、ドライバーの皆さんはより一層安全運転を心がけて欲しい」と話していました。



▲ドライバーに安全運転を呼びかける参加者



## 人権活動に感謝 (7/12)

7月1日で人権擁護委員を退任した岸本清文さん(下吉田)に、法務大臣から感謝状が贈られ、その贈呈式が三方庁舎で行われました。

贈呈式では、福井地方法務局の村田敦賀支局長が代理として感謝状を手渡し、岸本さんは、「長いようで短い期間だったが、いろいろな勉強をさせてもらった」と話していました。

岸本さんは、同委員を2期6年務め、任期中には、さまざまな人権擁護活動に尽力されました。

退任される岸本さんに代わり、岡本繁夫さん(有田)が、同委員として新たに委嘱されました。



▲感謝状を手にする岸本さん



## おいで！三方五湖 (7/13)



▲元気にPRする出演者ら

若狭町と美浜町の両町長が出演する、観光PR用テレビCMの撮影がレインボーライン山頂公園で行われました。

このテレビCMは、両町で構成する三方五湖広域観光協議会が、観光客を呼び込もうと発注したもので、両町長と福井放送の女子アナウンサー7人（通称「FBC女子アナ7」）が観光地や特産品をPRしたものになっています。

撮影では、カラフルな衣装で出演した両町長や女子アナたちが、若狭の魅力を伝えようと元気いっぱいPRしていました。

同CMは、8月から11月まで県内で放送されるほか、秋からは京都府や滋賀県でも放送される予定です。



## 水月湖から世界へ (7/15)

水月湖の年縞<sup>ねんこう</sup>を世界へ発信しようと、県と町が主催する研究発表会が県立三方青年の家で行われました。

年縞とは、湖底に堆積した土砂やプランクトンの死骸<sup>しがい</sup>などでできた層のことで、水月湖で掘削された年縞は、1年ごとにきれいな縞模様になっています。

発表会では、水月湖の年縞を研究した英国ニューカッスル大学の中川毅教授が、「水月湖年縞の真価とインパクト」と題した研究内容を発表しました。

また、中川教授とノンフィクション作家の山根一真さんによる対談も行われ、訪れた約400人の来場者は、ふたりの話に耳を傾けていました。

ほかにも、発表会に先立ち、水月湖の掘削現場をめぐるレイククルーズが行われたり、年縞をモチーフに作られたスイーツが振る舞われ、来場者たちは、水月湖の年縞に存分に堪能しました。

中川教授の水月湖での研究は、化石などの年代を測定する際の世界標準とされており、世界的にも注目されている研究となっています。



▲年縞研究について発表する中川教授



▲中川教授と対談した山根さん



▲掘削現場で年縞を説明する中川教授



▲年縞スイーツに並ぶ来場者の列



## 防犯に役立てて (7/16)



▲シールについて説明する藤田会長（写真中央）

三方交番所・駐在所連絡協議会から「パトカー巡視路」と書かれたシール 30 枚が寄贈されました。

シールは、地域内の防犯や交通安全活動などに取り組む同協議会が、子どもたちの防犯のためにと寄贈されたものです。

この日、同協議会の藤田喜代光会長と三方交番所の朝日裕之所長が教育委員会を訪れ、玉井教育長にシールを手渡しました。

寄贈した同協議会の藤田喜代光会長は、「子どもたちの役に立てれば」と、子どもたちの安全を願いました。

シールは、三方地域の各小中学校の通学路などに貼られる予定です。



## 家族でスポーツを楽しもう (7/20)

家族グラウンドゴルフ大会が、若狭テクノパークで行われました。

この大会は、スポーツを通じて家族とのふれあいの場をつくらうと、若狭町スポーツ推進委員会が企画したもので、町内から参加した親子らがグラウンドゴルフを楽しみました。

大会では、親子らが1打ごとに一喜一憂しながら24ホールを周り、会場のあちこちから楽しそうな声が聞えました。

お父さんと一緒に参加した小学4年生の山中志保さんは、「グラウンドゴルフは初めてだったけど、楽しかった」と話し、家族とのふれあいも楽しめたようです。



▲グラウンドゴルフを楽しむ参加者ら



## 夢は日本代表！ (7/24)

元オリンピック男子バレーボール日本代表で、町のふるさと大使を務めている荻野正二さん（サントリーサンバーズ）によるバレーボール教室が、三方体育館で行われました。

教室には、嶺南地域のスポーツ少年団などから約140人の選手が参加し、荻野さんと米山達也選（サントリーサンバーズ）手の二人からレシーブやスパイク、サーブなどについて指導を受けました。

指導を受けた上中バレーボールスポーツ少年団男子チームの柘原颯太さんは、「教えてもらったことを忘れずに出場する北信越大会に活かしたい」と話していました。



▲児童たちに指導する荻野さん



## 伝統野菜を地元の宝に (7/25)



▲地元産物の情報発信について講演する川口さん

山内かぶら元気アップセミナーが、山内集落センターで行われ、住民ら約40人が参加しました。

このセミナーは、町で唯一の伝統野菜「山内かぶら」を広めようと、生産者でつくる山内かぶらちゃんの会が開いたものです。

セミナーでは、北陸農政局福井地域センターの川口健史さんが「地元産物の情報発信の仕方について」と題して講演会を行いました。

川口さんは、「地元産物の知識や料理方法などを学び、ぜひ地元の宝にして欲しい」と、山内かぶらの振興に期待を寄せました。

終了後には、参加者ら一人ひとりに山内かぶらの種が配られました。



## ナイスショット! (7/25)

子どもゴルフ教室が、わかさカントリー倶楽部で行われました。

この教室は、子どもたちにゴルフの楽しさを知ってもらおうと、町の教育委員会が同倶楽部の協力を得て開催しているものです。

教室では、プラスチック製のクラブでテニスボールのようなボールを打つスナッグゴルフで指導が行われ、同倶楽部に所属する井出努プロや高村知範プロらからクラブの握り方やフォームなどを教わりました。

参加した小学5年生の濱崎なつめさんは、「ゴルフって結構難しい」と、口にしながらも笑顔でゴルフを楽しんでいました。



▲指導を受けながらボールを打つ児童たち



## 同じ若狭から来ました (7/27)

若狭町出身の首都圏在住者でつくる東京若狭会のメンバーらが、埼玉県所沢市若狭四丁目の納涼祭に出店し、若狭町をPRしました。

この取り組みは、地名が同じ「若狭」であることからお互いに交流を深めようと昨年からお店を出店を始めたものです。

納涼祭では、若狭湾の干物や福井梅などを販売したり、若狭町の観光地などのPRを行いました。

テントを訪れた人たちは、「同じ若狭で親近感がわく、ぜひ訪れてみたい」と話し、若狭四丁目町の役員も「今後もより良い交流を続けたい」と、これからの交流に期待をしていました。



▲若狭町の特産品などを買い求める来場者



## 交通事故ゼロを目指して (7/30)



▲交通安全を呼びかけるメンバーら

交通安全啓発活動が、PLANT-2の玄関前で行われました。

この活動は、夏の県民運動「子どもと高齢者交通事故ゼロの日」に合わせて行われたもので、若狭交通安全協会上中支部のメンバーや小浜警察署の署員など11人が参加して、買い物客に交通安全を呼びかけました。

若狭交通安全協会上中支部の松岡喜栄支部長は、「県内でも高齢者の交通死亡事故が多発している、ドライバーも安全運転に心がけるのはもちろんですが、歩行者も反射材を付けるなど、お互いに交通安全を心がけて欲しい」と話していました。



## 知って得！身近な最新技術！ (8/1)

町内の企業を見学する「知っとく乗っとくバスツアー 2013」が行われました。

バスツアーは、若狭町次世代定住促進協議会が、町内企業の技術や魅力を身近に感じてもらおうと企画したものです。

バスツアーでは、町内外の高校生13人が3社を訪れ、各社の担当者から会社の説明を聞いたり、実際に製品を目にするなどしました。

バスツアーに参加した美方高校3年生の田辺一樹さんは、「自分も半年後には就職する立場になる。いろいろな企業を見て、自分に合った仕事を見つけたい」と話していました。

このバスツアーは、8月5日にも行われ、町内企業の4社を見学しました。



▲製品の説明を聞く生徒ら



## 歌声でつなく友情 (8/2～8/4)

若狭町コロッコ少年少女合唱団が、大阪府高槻市にある高槻市少年少女合唱団と交流演奏会を中央公民館で行いました。

この交流は、歌を通じて姉妹都市の友情を深めようと3年に1度行われているものです。

演奏会では、お互いに美しい歌声を会場に響かせたほか、両方の団員と若狭町女声コーラス・コロボックルのメンバーと一緒に「花は咲く」を合唱し、来場者から大きな拍手が送られました。

参加した団員たちは、「一緒に歌うことでひとつになれた」と話し、お互いに友情をより一層深め合えたようです。



▲一緒に合唱する両団員たち



▲名水流しそうめんを味わう来場者



▲名水を使ったお茶を運ぶ浴衣姿の児童



▲元気よく踊るストリートダンス  
チームの子どもたち



▲大道芸人のパフォーマンスに  
歓声を上げる来場者



▲多くの人で賑わう会場の様子



## 暑い夏は名水でひんやり (8/3)

恒例の若狭瓜割名水まつりが、若狭瓜割名水公園で行われました。

まつりは、地域の宝である瓜割の滝をPRしようと、三宅地区の住民が実行委員会をつくり開催しているものです。

まつりの名物となっている名水流しそうめんには、多くの人ばかりができ、三重県からバスで訪れた観光客は「冷たくておいしい」と、よく冷えたそうめんを味わっていました。

また、瓜割の滝近くでは、名水を使った煎茶道方円流による野点茶会も行われ、浴衣姿の三宅小学校の児童が手際よくお茶を運んでいました。

ほかにも、大道芸人によるジャグリングショーをはじめ、ストリートダンスやフラダンスなどのステージショーが行われ、夜には秋山涼子さんの歌謡ショーや花火で賑わいました。



## 気分は縄文人 (8/4)

丸木舟乗船体験イベントが、縄文ロマンパークで行われました。

このイベントは、縄文博物館事業のサポートなどを行っている博物館友の会「DOKIDOKI会」が、丸木舟の乗船を通じて縄文文化に関心をもってもらおうと企画したものです。

イベントには、町内外から約20人が参加し、上手に木製の櫂を使いながら、湖面をスイスイと漕いでいきました。

昼食では、イノシシ肉などを使ったバーベキューが行われ、参加者たちは縄文人になった気分イベントを楽しんでいました。



▲丸木舟を漕ぐ参加者

町では、今月号から広報わかさの企画・編集を一部委託をすることになりました。  
委託については、町が目指す「みんなでつくる、みんなのまちづくり」の考えを基に、町が発信する情報を、いかにして住民目線で伝えるかと考えて始めたものです。  
広報紙づくりを通じて、住民が町政に参画したり、住民同士の交流を深めるなど、よりよいまちづくりを目指しますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## こんにちは、「NPO 法人わかさ Reco.」です！

今月号から、「広報わかさ」の取材と編集をさせていただきます「NPO法人わかさReco.（わかされこ）」です。

わたしたちは、合併して10年を迎えつつある若狭町の住民同士がもっともっとお互いを知り、行政も住民も隔てなく歩んで行けるように、若狭町の問題を町内外に広報したいと思っています。

これまで、行政職員の手ですべてが作られていた「広報わかさ」ですが、これからは、住民目線で作るページを加え、より身近な広報紙を目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

また、来月号からは、住民参加ページを増やしていきたいと考えています。

そこで、あなたのおススメや凝っていることなどを教えてください。今後、広報わかさを通じてご紹介できればと思います。

もしかすると、田んぼや畑で働く方にも突撃取材をさせていただくかもしれません。その際には、お気軽にお話ししてくださいね。

みんなでつくるみんなの「広報わかさ」を、これからもよろしくお願いいたします。

### わたしたちと一緒に「広報わかさ」を作ませんか？

#### 「住民リポーターさんを大募集！」

NPO法人わかさReco.では、より身近な広報紙づくりを目指すにあたって、住民リポーターを募集しています。

町内で行われるいろんなイベント、会議、お祭りなど、住民リポーターと一緒に取材に出かけませんか？

わたしたち、NPOスタッフも一緒にしますので、是非お気軽にご参加ください。

●問い合わせ・申し込み  
NPO法人わかさReco.  
若狭町兼田 21-8  
TEL 050-3701-8341  
ミナオイでヤサシイまち



## 広報クイズ



携帯でアクセス  
メールでも応募してネ

### ■応募方法■

キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。5つあるブルーのマス（アルファベット順に並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想や意見、住所、氏名を書いて、「〒919-1393 若狭町総務課」（住所は省略可）まで送ってください。電子メールでも受け付けます（soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp）。正解者の中から抽選で5人に図書カードをプレゼントします。当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

締切 9月17日（火）必着。

### ◇キーワード◇

- ①今年の9月16日は何の祝日。
- ②意見や忠告を聞こうとしない人にくら言っても何の効き目もないことをことわざを何と言う。
- ③かぐや姫は、どこへ帰って行った？
- ④2018年国体福井大会のマスコットキャラクターは何がモチーフになっている？（ヒント：本紙16ページ）
- ⑤「空」、「宝」、「宙」の部首の名前は？
- ⑥2016年の夏季オリンピックが開催されるブラジルの都市は？
- ⑦シェイクスピアの代表的な戯曲です。「〇〇とジュリエット」
- ⑧オーストラリア大陸やニュージーランド、ミクロネシア、ポリネシアなどを総称して何と呼ばれている？

### 【ヒント】

若狭の秋の代表的な食材。イカの王様と呼ばれ、味は最高です。  
《答え》〇〇〇〇〇

①	D		②		
E			⑥	B	
⑤	⑧				
		A			
C	⑦				
		④	③		

●前回の答え「コウジ」①カキ②キツンアン③キョウチャウ④ウチノコヅチ⑤チューリップ⑥プリンス⑦サグサグ⑧ケン

# HAPPY BIRTHDAY



● **橋本 亜侑ちゃん**  
 9月5日生まれ (杉山)  
 親: 好史・真紀さん  
 自作の歌とダンスで毎日ショー  
 タイム★三もあく大好き♥



● **長谷川 沙津紀ちゃん**  
 9月12日生まれ (向笠)  
 親: 竜太・裕美さん  
 保育所でづーいあるのが大好き!!  
 みんな、毎日いっぱい遊ぼうね♪



● **嶋津 友咲ちゃん**  
 9月25日生まれ (井崎)  
 親: 正二・亜沙美さん  
 お外大好き友咲。保育所のみんな  
 いつもあいごう!!

## 3歳です

このコーナーでは、9月に3歳を迎える町内にお住まいのお子さまに登場していただいています。なお、ご応募いただいた方のみ掲載しています。今回は平成22年9月生まれの3歳になるお子さまです。



次回は平成22年10月生まれのお子さまが対象です。写真と25字以内のコメント、生年月日、ご両親のお名前、連絡先を添えて総務課または上中サービス室へ提出してください (メールでの送付可)。

9月5日 (木) 必着です。

● 問い合わせ 総務課 TEL 45-9109  
 電子メール soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp  
 (受信確認のため、必ずお電話ください)

絆・クイズ  
 3歳・ミニクイズ

## 文芸ひろば

**川柳**  
**ほつと川柳**  
 味加減加齢と共に鈍くなる  
 味気ない話は黙って聞いておく  
 堀口 新田 恭子 (玉置)  
 光江 (兼田)

**川柳湖畔**  
 五線譜からはみ出している初舞台  
 普段着のまままで上がれという舞台  
 市野千恵子 (三方)  
 吉村恵美子 (上野)

**短歌**  
**上中短歌会**  
 古る寺の境内めぐる参道に  
 山アジサイの紫の花  
 いくつもの場所から湧き出る滝の水  
 大きく丸き冷気なりたり  
 小林 福 (日笠)

**かきり歌会**  
 田草とり腰を伸ばせばうぐいすの  
 鳴き声と共にそよ風も吹く  
 一粒の黒紫の桑の実を  
 含めばとほき幼な日ひろごる  
 前田 鈴子 (田上)

**俳句**  
**五湖俳句会**  
 新しきいのち囲みて夏座敷  
 川はさむ源氏と平家の螢道  
 山田ミチ子 (倉見)  
 玉井 悦子 (田井野)

**若狭膳俳句会**  
 目覚ましに縷紅草見る妻戸先  
 螢火や幻想となる溪のすじ  
 宮本 洋子 (末野)  
 古川 泰石 (せせらぎ)